

鹿児島県離島振興協会「アイランドキャンパス」事業 2017

鹿島地区・瀬々野浦地区での運動会参加  
および 海星中学校での交流実践  
～下甕島での地域交流実践～

報告書

実施期間

2017年9月28日～10月2日

九州情報大学  
学術研究所 地域情報センター

## 《目次》

1. 事業実施の目的と事業の概要 3  
    (資料) 九州情報大学の甬島での「アイランドキャンパス」の概要と変遷 4
2. 実施場所 5
3. 実施期間とスケジュール 5
4. 事業実施・実践の内容の詳細～その成果と課題 5
  - (1) 海星中学校での交流実践 6
  - (2) 鹿島小学校運動会への参加 8
  - (3) 西山地区の住民との交流 9
5. 「アイランドキャンパス」から「甬島プロジェクト」へ 11
  - (1) 「甬島フェア」の取り組み 11
  - (2) 卒業研究へつなぐ取り組み 12
6. 参加者 13  
  
    ※コンビニひとつない島、でもそこには、あったかいく出会いがある 15
7. おわりに 16

## 鹿島地区・瀬々野浦地区での運動会参加 および 海星中学校での交流実践 ～下甌島での地域交流実践～ ～報告書～

2018年2月14日

九州情報大学 学術研究所 地域情報センター  
教授 平田 毅

### 1. 事業実施の目的と事業の概要

- ・学生が「甌島」との出会いを通して、甌島という島・地域に愛着をもち、日本の離島文化の一端を理解しようとする態度を養う。
- ・学生が下甌島で、運動会など地域行事・学校行事に参加し交流することを通して、相互の親睦を図るとともに交流を深める。
- ・また、今後、公開講座などを通して本学の知的・人的資源を甌島地域に活用・還元していく具体的な方途やプログラムを模索する。

甌島を楽しむ ～自然を楽しむ、文化を楽しむ、出会い・再会を楽しむ。

甌島とつながる ～多くの人々と出会い、つながりを深める。

甌島をつなげる ～甌島での取り組みを来年以降につなぐ。

島の人々の名前をおぼえよう！ あなたの名前を島の人たちに覚えてもらおう！  
私たちの島での実践を、私たち自身の、そして、島の人たちや子ども達の思い出に残るように取り組もう！

九州情報大学の甌島での「アイランドキャンパス」の取り組みも今年で6年目をむかえた。本年度も昨年度を踏襲した下甌島・瀬々野浦での運動会参加・チャンコ鍋の提供を通じた交流（今年で5年目）に加え、鹿島小学校の運動会に参加、海星中学校での吹奏楽・音楽を通じた実践交流の取り組みが新たに加わった。鹿島地区での交流・親睦は昨年までの2年間の子供会行事への参加であったが、3年目となる本年は鹿島小学校の学校行事（運動会）への参加となった。また、今年初めての試みとして、海星中学校において音楽（吹奏楽）を通しての交流実践授業の取り組みも実施した。

甌島は、「島立ち」によって若年世代人口が極端に少なく、特異な形で少子高齢化と人口減少が著しく進行している。そうした甌島においてこれまで6年わたり、本学の学生と島民との交流事業を続けてきているのであるが、それは双方にとって恒例のイベントとして定着してきている。また6年目となった今年度は、新たな交流の局面も展開し、今までになく新鮮で忙しい交流実践となった。

また、今年度は、鹿児島県離島振興協議会より3年ぶりの助成を受けた取り組みであったため、参加者全員が一致団結して、甌島での交流実践プロジェクトを成功に導いていけたと考えている。我々学生にとっても、島民にとっても、共に有意義で充実した交流・親睦の場となった。参加する学生一人ひとりが、それぞれの場面で「自ら考え、自ら行動し、楽しみ、そして自らが成果を出す」という主体性をこのプロジェクトへの参画を通して、達成していったのではないかと確信している。

この6年間の本学の甌島での交流実践の概要は以下のとおりである。

【資料】九州情報大学の甌島での「アイランドキャンパス」の概略と変遷

年度	実施期間	テーマ	実践内容	実施場所	参加人数	実施形態
2012	9月12日 ～15日	漂着物探しと国際 交流・国際理解、そ して情報発信！	上甌島散策、漂流物探し 里小学校で交流授業実践 韓国の遊びと歌で国際交流 里公民館での 韓国語講座と韓国料理の提供	上甌島 里小学校 里地区	学生：9名 教員：2名	
2013	9月26日 ～30日	遊び・歌・料理・言 葉を通して国際交 流・国際理解、そし て情報発信！	長浜小学校で交流授業実践 韓国の遊びと歌で国際交流 給食交流 瀬々野浦地区での交流 韓国語講座 区民運動会への参加 国際交流&韓国料理提供  ※学園祭(11月)で「第1回甌島フ ェア」を開催。学生7名で運営	下甌島	学生：14名 教員：2名	薩摩川内市 「こしきアイ ランドキャン パス」事業に 応募・参加
2014	9月25日 ～29日	下甌島・瀬々野浦 地区との運動会を 通した地域交流 (および同地区の 体験型観光振興(「ウ ラおこし」と情報発 信の方策)	長浜小学校での交流 全児童との交流(昼休み) 6年生児童との 綱引き・相撲を通して交流 瀬々野浦地区での交流 区民運動会に参加 相撲交流&チャンコ鍋の提供  ※学園祭(11月)で「第2回甌島フ ェア」を開催。学生8名で運営	長浜小学校 瀬々野浦地区	学生：10名 卒業生：1名 教員：2名	鹿児島県離島 振興協議会 「アイランド キャンパス」 事業に応募・ 参加
2015	9月24日 ～28日	下甌島・鹿島地区 と瀬々野浦地区で の交流実践	鹿島地区での交流 十五夜綱引き大会・子ども相 撲大会に参加し、地区住民(子 ども達)との交流 瀬々野浦地区での交流 区民運動会に参加 相撲交流&チャンコ鍋の提供  ※学園祭(11月)で「第3回甌島フ ェア」を開催。学生4名で運営	下甌島	学生：7名 教員：1名	
2016	9月22日 ～26日	下甌島・鹿島& 瀬々野浦地区での 地域交流実践	鹿島地区での交流 子ども相撲大会に参加 地区子ども会との交流 瀬々野浦地区での交流 区民運動会に参加 相撲交流&チャンコ鍋の提供  ※学園祭(11月)で「第4回甌島フ ェア」を開催。学生9名で運営	下甌島 鹿島地区 瀬々野浦地区	学生：11名 教員：1名	本学学術研究 所地域情報セ ンター単独の 事業として実 施
2017	9月28日 ～10月2日	鹿島地区・瀬々野 浦地区での運動会 参加 および 海星 中学校での交流実 践	海星中学校での交流実践 音楽を通した交流実践授業 陸上競技を通した交流 鹿島地区での交流 鹿島小学校運動会に参加交流 瀬々野浦地区での交流 区民運動会に参加 相撲交流&チャンコ鍋の提供  ※学園祭(11月)で「第5回甌島フ ェア」を開催。学生7名で運営	下甌島 海星中学校 鹿島地区 瀬々野浦地区	学生：14名 卒業生：2名 教員：2名	鹿児島県離島 振興協議会 「アイランド キャンパス」 事業に応募・ 参加

## 2. 実施場所

鹿児島県薩摩川内市 下甌島 (下甌町・鹿島町)

- ・下甌 (青瀬) : (9月29日(金)) 場所: 海星中学校
- ・鹿島地区 (藺牟田) : (9月30日(土)) 場所: 鹿島小学校
- ・西山地区 (瀬々野浦) : (10月1日(日)) 場所: 旧西山小学校 (体育館) ほか

## 3. 実施期間とスケジュール

実施期間 : 2017年9月28日(木)～10月2日(月)4泊5日

海星中学校 (29日) / 鹿島小学校 運動会 (30日) / 西山地区 運動会 (10月1日)

日程	スケジュール	備考	食事
前日 9月27日(水)	17:00 荷物→各車に搬入		
1日目 9月28日(木)	9:00 大学1号館前 集合～最終チェック 9:20 大学出発 筑紫野 IC～(九州道)～基山 PA～宮原 SA (休憩)～(南九州道)～津奈木 IC～国道3号線～薩摩川内市～串木野新港フェリーターミナル (走行距離 約300km) 15:30 串木野新港到着 16:35 串木野新港よりフェリー 19:05 下甌島 長浜港到着 19:50 瀬々野浦 「民宿浦島」チェックイン (コミュニティセンターへ食材搬入→冷凍冷蔵) 20:30 夕食 21:00 ミーティング・明日の予定等	○出発  途中、ファミレス等で昼食  ○フェリー ※集合写真  瀬々野浦「浦島」泊	(各自)         夕食
2日目 9月29日(金)	6:30 起床 (～お朝事(西浄寺))～朝食 9:00 瀬々野浦出発～手打ちへ 10:00 「こしきの塩」見学体験 13:30 海星中学校 海星中学校での交流実践授業 鹿島へ移動 夕食 自炊(カレー)	鹿島へ移動 運動会準備? カレー作り  ○交流実践授業 ※集合写真 放課後交流  鹿島「いいいの家」「きくや」泊	朝食 (昼食)     夕食
3日目 9月30日(土)	7:00 起床 ～朝食 鹿島小学校 運動会 に参加 終了後、瀬々野浦(西山)へ チャンコ鍋のしこみ・準備(100食分) 19:00 夕食(サンセットバーベキュー) ミーティング	○活動風景  ○準備風景  13:35 フェリー(原口・川口入り) 瀬々野浦「浦島」泊	朝食  昼食 (きくや) 夕食
4日目 10月1日(日)	6:30 起床 ～7:00 朝食 チャンコ鍋のしこみ・準備(100食分) (終日)西山地区運動会 に参加 チャンコ鍋の提供 昼食:おにぎり 打ち上げに参加	○チャンコ鍋の提供・交流 ※集合写真 ○打ち上げ交流 その他 全般 瀬々野浦「浦島」泊	朝食  昼食  (夕食)
5日目 10月2日(月)	6:30 起床 (～お朝事(西浄寺)) 8:00 朝食～9:15 「浦島」退所、荷物積み込み 10:00 島内観光(1)下甌島観光(手打・青瀬) (昼食) TRATTORIA OTTO 8 13:30 長浜港到着 14:20 長浜港出発(フェリー) 16:15 串木野新港到着 国道3号線～津奈木 IC～南九州道～宮原 SA(夕食休憩)～ 広川 SA(休憩)～筑紫野 IC 22:30 大学到着～荷物降ろし～解散	○下甌島探索      ○総括(まとめ)	朝食            昼食            各自

### 事前準備・甌島訪問

- 8月9日(水)～11日 現地事前打ち合わせ(瀬々野浦、長浜ほか) ※梶原、都野、大原、照喜名、平田
- 9月8日(金) 11:00～ メンバー顔合わせ、スケジュール等の確認  
必要物品のリスト作成・点検 → 買い出し品のリスト作成
- 9月13日(水) 現地事前打ち合わせ(海星中学校ほか) ※梶原、神、小林、平田
- 9月13日(水) 第1次買い出し: 道具類&食材発注
- 9月21日(木) 13:00～ 第2次買い出し(冷凍・生鮮などの注文発注など)
- 9月27日(水) 12:10～ 最終打ち合わせ【全員】 ～ 第3次買い出し(買い残し、追加分など)

## 4. 事業実施・実践の内容の詳細 ～その成果と課題

### (1) 海星中学校での交流実践 9月29日(金) 場所: 海星中学校

海星中学校PTA会長さんから呼びかけで、今年度初めて中学校での交流実践を実施することとなった。3年前(2014年度)の交流実践において長浜小学校6年生たちと綱引きと相撲で交流した。その時の子ども達が現在中学校3年生になっており、「島立ち」を前に再度交流の場を持つという趣旨で実施することとなった。しかし、3年前に交流した本学学生で今回も参加している学生は相撲部女子の大田咲綾1名のみであったことと、海星中学校にはかつて吹奏楽部が活動しており中学校の音楽室にはいくつかの楽器も保管してあることもあり、今回は相撲お通した交流ではなく、吹奏楽部に所属する学生を中心に、音楽を通じた交流を行うことになった。また、10月には下甌のすべて小中学校が集う「なかよし音楽会」も開催されるので、それに向けた動機づけにしようということになった。

<p>場所 海星中学校体育館 司会進行 梶原・都野</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オープニング(宇宙戦艦ヤマト)</li> <li>2. 楽器紹介(+自己紹介)</li> <li>3. 演奏             <ul style="list-style-type: none"> <li>・女々しくて</li> <li>・勇気100%</li> <li>・世界に一つだけの花 みんなで歌おう! ※一番のみ</li> </ul> </li> <li>4. 交流(パート毎)</li> <li>5. おわりに(全員)</li> </ol> <p>放課後 音楽: 興味を持った生徒さんとさらに交流(アドバイス) 陸上: 陸上競技による交流(学生のアドバイス)</p>	<p>メンバー、楽器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸岡ゆうみ: フルート(大学所有)</li> <li>・神 芹奈: クラリネット(大学所有)</li> <li>・山崎寿鷗: サックス(個人所有)</li> <li>・伊波菜々美: トランペット(指導者所有)</li> <li>・平林萌里: ユーフォニウム(大学所有)</li> <li>・梶原愛理: チューバ(海星中所有)</li> </ul> <p>進行: 都野彩夏(コントラバス: 吹奏楽部) 補助: 今川海世(陸上部) 小川愛梨沙(陸上部) 木本瑞希(陸上部) 大田咲綾(3年前に長浜小で交流)</p>
---	--

海星中 生徒数 13名(1年5名、2年2名、3年6名) [男4名 / 女9名] 教職員 11名(教員8名)

交流は、5時限目「音楽」の授業の一環として全校生徒が体育館に集い実施。まず、本学の吹奏楽部の参加学生6名による15分程度の演奏会を行った。中学生に吹奏楽や楽器に親しんでもらおうと、それぞれの楽器を簡単な演奏を交えて紹介。その後、音楽室・体育館で「なかよし音楽会」に向けた

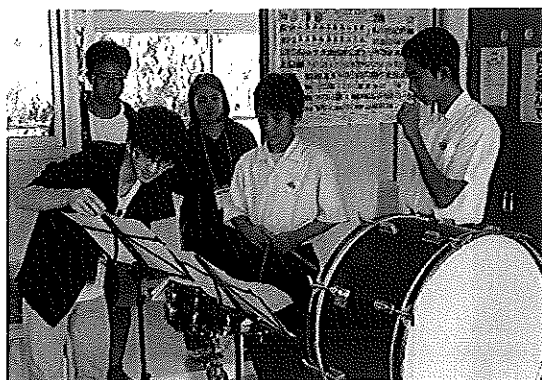
生徒たちの練習を 20 分ほど本学学生が指導し交流を図った。

放課後は、吹奏楽の楽器に興味をもった生徒たちが音楽室に集い、楽器を実際に触り吹くという体験を実施した。ほとんどのが生徒が参加してくれる姿があった。

一方、中学校でただ一人陸上部に所属している男子生徒に対して、本学から参加していた陸上部所属の学生 3 名と一緒に練習をしながら交流する機会も得た。

#### 《海星中学校での実践の成果と課題》

- (1) 今回初めて中学校での交流実践の試みであった。しかも、音楽と陸上を通しての短い時間での交流であったものの、こうした機会をつくれたことは大きな意味を持つと考えている。音楽・陸上以上に、大学生のお姉さんお兄さんとの交流は、生徒達に「島立ち」したその先の自らの将来像をスケッチする一つの機会になったかもしれない。また本学学生にとって、わずか 45 分の授業実践を成功させるため、事前に海星中学校に赴き、保管されている楽器のチェックを行ったり、企画案をもとに中学校の先生方と打ち合わせをしたりと、主体的に活動している姿があったことは、大きな成果であったと考える。それらが結実して、この交流実践は無事成功へと導かれたのである。
- (2) 今後の課題としては、今回の中学校での交流実践を次年度以降にどのように継続し発展させていくか、ということにある。それも含めて、今回参加した学生を核として、彼らが主体的にどう企画・立案・実施していくかにかかっている。



## (2) 鹿島小学校運動会への参加 9月30日(土) 場所: 鹿島小学校

鹿島小学校との交流はこれまで子供会行事の相撲大会のお手伝いとして相撲部学生を中心に交流の場を持っていたが、今回は小学校の運動会と日程が重なったため、本学の学生達が鹿島小学校の運動会に参加することとで交流をすることとなった。

鹿島小学校のご厚意で、プログラム14:各種団体リレー に、九州情報大学から2チームが参加出場させていただいた。

A. どすこいチーム	B. はやく奏でろチーム
大原 佑介	神 芹奈
照喜名 清貴	平林 萌里
吉本 航大	今川 海世
宮崎 龍輝	小川 愛梨沙

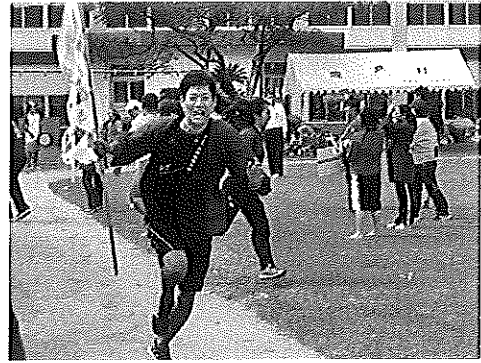
その他、綱引き、障害物競走などいくつかの競技にも情報大チームとして随時参加させていたき、運動会に参加している鹿島の方々からの熱い声援のなか学生達も笑顔に満ち溢れていた。また、運動会の運営にも用具係としても活躍の場をいただいた。

### 《鹿島小学校での実践の成果と課題》

- (1) 今まで鹿島地区では子供会の地域行事での交流であったが、今回初めて鹿島小学校の運動会に参加という形での交流実践の試みとなった。このことは、鹿島地区での交流範囲の広がりとして評価できる。鹿島地区の多くの人に甬島での本学の交流実践を認知してもらえる良い機会になったと思う。なにより、生き生きと運動会に参加している本学学生の姿があったことは、理屈抜きにすばらしいことであると思う。
- (2) 今後、運動会の打ち上げへの参加も含めて、地域の方々とのパーソナルな交流も深めて行くことが課題である。鹿島地区という地域共同体とトータルに交流していくことで、我々が学ぶことも多いと考える。しかし、これまで私たちは瀬々野浦・西山地区とは6年間にわたってそうした交流を築いてきたのであるが、限られた滞在期間(予算)のなかで、鹿島地区との交流深化をどのように図っていくかは、まさに課題であるといえる。







### (3) 西山地区の住民との交流会 10月1日(日) 場所: 旧西山小学校(体育館)

瀬々野浦・西山地区との交流は、5年目を迎えた、1年目(2012年)は韓国人留学生を中心とした韓国語ミニ講座および運動会参加と韓国料理の提供通した交流活動を実施したが、翌2013年からは本学相撲部員の参加を得て、運動会参加(相撲演武披露)と特製ちゃんこ鍋の提供を通した交流活動を実施してきた。

今年度は、これらに加えて本学吹奏楽部員および陸上部員の参加も得られたので、運動会昼休みに吹奏楽ミニ演奏会と、陸上部員による準備運動・整理運動のコーチングも新たに実施し、様々な領域での交流活動を行うことができた。

また例年通り、多くの運動会競技にも参加させていただき、運動会後の打ち上げにも本学学生も加えていただいた。

今回は、累年で参加している学生が多かったこと、さらに卒業生2名の参加もあり、例年にもまして学生(卒業生)と瀬々野浦の方々が膝を交えて語り合う姿がみられた。盛り上がり充実した交流であった。

#### 《瀬々野浦での交流の成果と課題》

- (1) 地区の運動会への参加交流実践を5年に亘り実施できたのは、瀬々野浦(西山地区)という100人余りの集落での取り組みであったことが、すべてを成功に導いてくれたと心から思う。それは、打ち合わせのときからお世話をしてくださった方々をはじめ、西山地区のすべての人たちに温かく見守られて、はじめて私たちの取り組みが意味あるものに結実していったと痛感している。ただただ感謝するばかりである。(注: 交流をはじめた当初2013年は150人余りの住民の方が居られたが、この5年間で過疎化が進行している現実がある)
- (2) 運動会では、学生達が積極的に競技に参加してくれた。住民みなさんの声援のなかで、学生達も嬉々として運動会を楽しんでいた。はじめた参加する学生も極自然に馴染んでいったのも西山地区の皆さんの暖かさであり、この5年間蓄積に起因することも多いと考えられる、昼食時間の相撲部特製ちゃんこ鍋提供も含めて、すっかり定着してきている感があるのも嬉しいかぎりである。
- (4) 今年は昼休み時間を利用して、本学吹奏楽部に所属する学生たちによるミニ演奏会も実施し

たが、一生懸命に聴いてくださる住民のみなさん姿があった。喜んでいただけたこと、そして  
本学の吹奏楽部を知っていただけたこと、有り難い限りある。演奏した学生たちにとって、間近  
で耳を傾けてくださっていることで、演奏に心がこもっていたように思われた。

(5) 打ち上げは、毎回本当に良き機会と場を設定していただいていると感謝している。こうした  
機会を経験していくことは、昨今の学生の課題とされているコミュニケーション力を身につける  
ためにも、すべての学生にとって極めて有意義な経験となった。



## 5. 「アイランドキャンパス」から「甌島プロジェクト」へ

毎年9月に実施してきた甌島での「アイランドキャンパス」。私たちにとってそれはその時限りの取り組みではなく、他の教育活動の場面にも波及するものとしてそだって成長してきた。

それは、一つには、2013年度からはじめた本学学園祭での「甌島フェア」の取り組みであり、他方では卒業研究（卒業論文）への広がりである。

### (1) 「甌島フェア」の取り組み

甌島での「こしきアイランドキャンパス」実施の2年目の2013年から、参加学生の多数を占めていた平田ゼミ（社会学・地域研究）の学生を中心に「甌島フェア」ははじまった。

私たちが出会った大好きな甌島を多くのひとにも知ってもらいたいとの思いで、甌島で仕入れたキビナゴとタカエビの唐揚げを売り、その他特産品を販売した。（特産品については事前予約販売も実施した）この「甌島フェア」は学内・近隣地域にも好評で、それ以降5年間継続して実施してきている。

今年度からは、この「甌島フェア」にも新しい試みが見られた。これまで4年間の取り組みで品揃えもマンネリ化してきていることの反省もあり、新たな商品発掘をしようと学生たちが動き出したのである。商品ハンティングのため学生らが下甌島の青瀬地区と手打地区を訪ね、現地の生産者に出会い聞き取りをし仕入れ交渉を行った。

青瀬コミュニティ協議会では、自生もしくは栽培されてる椿油を使った商品と柑橘系のサワーポメロなどを使った商品を独自に開発されており、それらの誕生秘話を含めた聞き取り調査を実施している。また、手打地区の「こしきの塩」を生産している有馬さんを訪ね、工房を見学、聞き取りを行い実際に塩づくりを体験してきている。

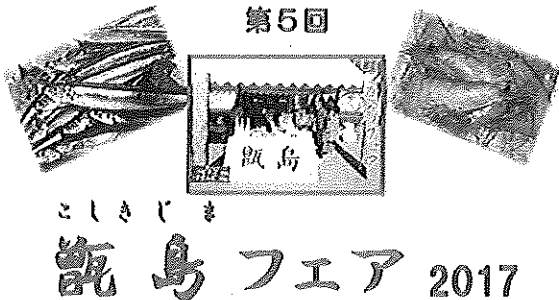
こうして現地で実際に生産者との「出会い」を通して取り扱う商品を決めていく過程は、学生たちに、「甌島フェア」が単なる学園祭の模擬店を超えた事業としての意味を創出させたのではないかと考える。

今回、「甌島フェア」に取り組んだ学生達は、来年は上甌島の商品発掘を目論んでいる。



## 飯島のおいしさが太宰府に上陸!

第5回



九州情報大学 泉苑寮 11月11日(土)・12日(日)

九州情報大学、泉苑寮センターおまわりを由良ゼミは、長門県萩市川中島・飯島で食文化「アイランドキャンパス」を実施して、今年で5年目を迎えました。この5年間で、この島を訪れ、様々な行事を行ってきました。その中でもあって、2013年の実施で「学芸祭」から、「飯島フェア」と改題して、私たちの魅力(飯島特産品)の魅力を発信しています。

今年で5年目を迎える「飯島フェア」、今年も、飯島町内で開催された「こしきじま」(キビゴウカエビ)など、お祭りの雰囲気を味わえます。飯島のおいしさ(九州情報大学のキャンパス)に広がります。見学の機会に、是非お祭り気分を味わっていただきます!

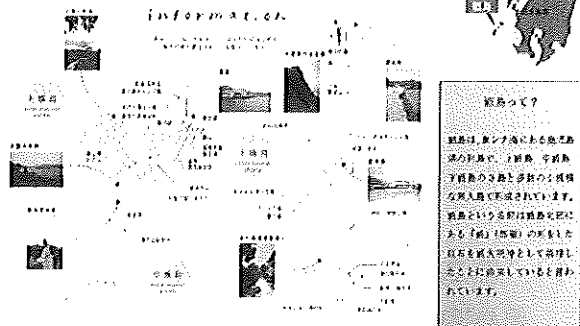
ちなみに、今年は盛り盛り盛り盛り、お祭りの子取り文をお見せします。



**【イベント】**  
タカエビ・キビゴウカエビの振舞い、キビゴウカエビ振舞い  
**【取り盛り品】**  
山丁飯(庄屋・惣持)、大庄屋(ター)、島産  
キビゴウ(庄屋・惣持)、タカエビ(庄屋)、キビゴウ(惣持)  
有精もち(山丁・惣持)、こしきじま けいこ餅

**九州情報大学泉苑寮企画 飯島フェア**  
実施主体：九州情報大学 平田ゼミ  
〒818-8511 福岡県大牟田市赤倉6-3-1  
092-994-4000 (大学)  
092-1493-2424 (泉苑)  
学生代員  
092-3413-2903 (泉苑)

## こしき島ってどんな島?



**飯島って?**  
飯島は、長門半島に広がる島嶼地帯の中心で、2000年、守り続けた歴史の文化と自然の心霊地帯に人々が集まっています。飯島という名前は、飯島を意味する「飯」(飯)の字をとり、飯島を「飯島」として呼ばれるようになったと伝えられています。また、飯島を「飯島」として呼ばれるようになったと伝えられています。

**タカエビ**  
お祭り「こしきじま」の中心の祭り、神楽に合わせた舞、舞の中心は神楽です。このエビは飯島で獲れるのですが、最近では減少傾向にあり、貴重なものとして扱われています。お祭りでも、獲りたての新鮮なエビが味わえます。

**キビゴウ**  
キビゴウは、飯島の特産品で、長年、飯島で獲られてきました。近年、飯島で獲られる量が減少傾向にあり、貴重なものとして扱われています。お祭りでも、獲りたての新鮮なキビゴウが味わえます。



## 今年も飯島に行ってきました!!

学生15名、卒業生2名、教員2名  
「飯島 アイランドキャンパス」では5年目を迎えることになりました。ゼミではこのお祭りの中心として、今年も実施することになりました。今年も、お祭りに参加し、お祭りを楽しみました。お祭りでも、獲りたての新鮮なエビが味わえます。お祭りでも、獲りたての新鮮なキビゴウが味わえます。

## (2) 卒業研究へとつなげる取り組み

飯島での「アイランドキャンパス」の中心メンバー構成する平田ゼミの学生のなかには卒業研究として飯島をフィールドとする学生も出てきている。

2014年度には、二つの卒業論文として実を結んでいる。

末吉竜之介・横濱雅之「下飯島瀬々野浦・西山地区のコミュニティ組織の研究～瀬々野浦の民家と集落形態」

浦川教志「飯島の『地域おこし』についての研究～古道再生プロジェクトを中心に」

いずれも内容としては拙い部分はあるものの飯島をフィールドとした卒業研究がなされたことは嬉しいかぎりであり、彼らにとっても飯島が重要な存在として刻み込まれたことになる。

また、前項の「飯島フェア」の取り組みも卒業研究の取り組みとして位置づけられている。現在3年生の彼らは、今年・来年の取り組みを総括して、「飯島フェア」の実践報告を経営学的視点からまとめ上げようと目論んでいる。

さらには、現在2年生の学生らは卒業研究の一環として、旅行会社と共同して、学生自らの視点で計画した飯島ツアーの一般実施を目論んでいる。実現できるか楽しみなどところである。

いずれにしても (1) (2) とともに、飯島での「アイランドキャンパス」を契機として創出されてきたものであり、それはもはや9月期に一時的に実施する飯島での「アイランドキャンパス」から派生した取り組みとして位置付いている「飯島プロジェクト」ともいえるべきものに成長してきていると言える。

こうした「飯島」を一つのフィールドとした様々な取り組みが派生していくフィールドが飯島の持つポテンシャル(潜在性)であると思う。

## 6. 参加者

学生：14名 卒業生：2名 教員：2名 (男：9名 / 女：9名) 合計 18名

No	名前	よみ	性別	生年月日	所属 (学年)	備考
1	平田 毅	ヒラタ タケシ	男 58歳	(S33)1958/12/10	教員	地域情報センター長
2	橋爪 善光	ハシヅメ ヨシミツ	男 38歳	(S54)1979/04/02	教員	生涯学習センター長
3	2141006 大原 佑介	オオハラ ユウスケ	男 21歳	(H8)1996/01/09	相撲部 (4年)	鹿島小・チャンコ班
4	2141023 照喜名 清貴	テルキナ キヨタカ	男 22歳	(H6)1994/10/19	相撲部 (4年)	鹿島小・チャンコ班
5	2141502 大田 咲綾	オオタ サアヤ	女 21歳	(H8)1996/03/21	相撲部 M (4年)	海星中、鹿島小
6	2151066 吉本 航大	ヨシモト コウダイ	男 21歳	(H8)1996/04/02	相撲部 (3年)	鹿島小・チャンコ班
7	2161039 宮崎 龍輝	ミヤザキ タツキ	男 20歳	(H9)1997/04/16	相撲部 (2年)	鹿島小・チャンコ班
8	2151006 伊波 菜々美	イハ ナナミ	女 20歳	(H9)1997/03/07	平田ゼミ (3年)	トランペット 海星中 交流実践班
9	2151017 梶原 愛理	カジワラ アイリ	女 20歳	(H9)1997/3/31	平田ゼミ (3年)	チューバ 海星中 交流実践班
10	2151038 都野 彩夏	ツノ アヤカ	女 21歳	(H8)1996/7/10	平田ゼミ (3年)	コントラバス 海星中 交流実践班
11	2151061 諸岡 ゆうみ	モロオカ ユウミ	女 20歳	(H8)1996/11/20	平田ゼミ (3年)	フルート 海星中 交流実践班
12	2151518 山崎 寿鵬	ヤマサキ トシユキ	男 21歳	(H8)1996/09/16	平田ゼミ (3年)	サクソ 海星中 交流実践班
13	2161012 神 芹奈	カミ セリナ	女 19歳	(H10)1998/03/31	平田ゼミ (2年)	クラリネット 海星中 交流実践班
14	2161035 平林 萌里	ヒラバヤシ モエリ	女 20歳	(H9)1997/05/25	平田ゼミ (2年)	ユーフォonium 海星中 交流実践班
15	2161004 今川 海世	イマガワ カイセイ	男 19歳	(H10)1998/01/08	陸上部 (2年)	公開講座班
16	2161009 小川 愛梨沙	オガワ アリサ	女 20歳	(H9)1997/06/13	陸上部 (2年)	公開講座班
17	OG 原口 美紗樹	ハラグチ ミサキ	女 25歳	(H4)1992/02/25	卒業生	9月30日より参加
18	OB 川口 楓	カワグチ カエデ	男 24歳	(H4)1992/11/29	卒業生	9月30日より参加

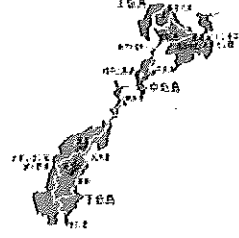
※卒業生・原口美紗樹&川口楓さんの旅費は、本人負担。







# コンビニひとつない島、でもそこには、あたたかい〈出会い〉がある



地域情報センターでは、2012年度から毎年9月に甌島（こしきしま）でアイランドキャンパスを実施しています。今年で6目になりました。参加学生は毎年10～15名程度、今年は、卒業生2名の参加もあり、教員2名を含めて19名が参加しました。

甌島は鹿児島県薩摩川内の沖30km、東シナ海に浮かぶ列島です。この島で私たちは、6年間にわたって、地域の運動会参加や小・中学校での交流実践を続けています。

甌島を楽しむ～自然を楽しむ、文化を楽しむ、出会い・再会を楽しむ。  
甌島とつながる～多くの人々と出会い、つながりを深める。  
甌島をつなげる～島での取り組みを来年以降につなぐ。

今年度のスケジュール	
9月28日	出発～夕方串木野からフェリーで下甌島へ
9月29日	島内観光(1) 海星中学校で交流実践 音楽(吹奏楽)部活(陸上競技) 夕食:カレー(自炊)
9月30日	甌島小学校運動会に参加・お手伝い サンセットバーベキュー
10月1日	瀬々野浦・西山地区運動会に参加 (相模部特製チョコ餅を提供) 陸上部:準備運動・整理運動のサポート 相模部:相模の演武・アトラクション 吹奏楽部:昼休みに演奏会
	打ち上げに参加
10月2日	島内観光(2)～帰途



石炭料理の美味いって結構好評!

### 百本航太 (3年・相模部・竹石ゼミ)

今回初めて参加しました。相模部の先輩に甌島のことはよく聞いていたので、ずっと参加したかった! 今回、甌島での活動で感じたことは二つあります。

一つは、仲間と協力する大切さです。私は、西山の運動会のちゃんこ鍋の責任者だったのですが、相模部以外の参加者とも協力してやり遂げられるだろうかと不安でした。突然いくつかのアクシデントもあったのですが、本当にみんなが手伝ってくれて美味しいちゃんこ鍋を完成させることができました。島のみなさんが「去年よりも美味しい!」との声を聞いたときには本当に嬉しかった。学生みんなでやったBBQや夜中までのおしゃべりのなかで、みんなが本当に仲良くなっていくのを感じることができました。もう一つはやはり島の方々のあたたかさです。「遠いところから来てくれてありがとう」とたくさん声を掛けていただきました。運動会での和やでとても熱い雰囲気島のみなさんたちから元氣ももらいました。お互いを思いやって助け合っている姿に、地区の人たちの様を感じました。

5日間があつという間に過ぎていきました。そう感じたのも毎日が充実していたからだと思います。来年は自分が相模部の代表として甌島での活動を主体的に引っ張っていけるようになりたいと思います。

### 梶原俊理 (3年・吹奏楽部・平田ゼミ)

2回目のアイランドキャンパスでした。私は、海星中学校での音楽の実践交流の責任者だったのですが、中学校での事前打ち合わせや仲間との打ち合わせなど、何もかもはじめてで本当に不安ばかりでした。

でも、中学校の先生方も丁寧に打ち合わせをしてくださり、仲間のメンバーも愚痴一つこぼさずついてきてくれて、とても頼もしくありがたかったです。

なによりも、中学校の生徒さんたちが、私たちの話や演奏を本当に真剣に聞いてくれたことは、何物にも代えがたい経験になりました。放課後も音楽室に集まってきて、楽器や吹奏楽、音楽に興味を持ってくれたことも、純粋に嬉しかったです。

一つの企画を作ることのむずかしさ、人に伝えることの難しさを改めて実感し、得るものが多かった甌島でした。素敵な大学生活での思い出がまた一つ増えました。



フルーツがおいしいんです?



こぼれまわったお水も!

### 木本雅希 (2年・陸上競技部・坂垣ゼミ)

今回はじめて陸上競技部として参加したのですが、友達や先輩の大切さ、教えること伝えることの難しさを学ばせてもらったと思っています。

陸上部の3人は、海星中学校で放課後、一人ひとりの陸上部の男子と交流しました。同じ種目(800m)の中学生に何を教えて良いのかを正直迷いましたが、自分が競技するうえで意識していることをすべて伝えました。10伝えても4しか伝わっていないかもしれないけど、1伝わるだけでも陸上の話をすれば3のことだったり5だったり、陸上で繋がることのすばらしさを実感しました。でも、やっぱりいろいろなことを伝えるのは、ほんとに難しいかったです。今回の甌島での経験をいかして、陸上、勉強、学友会など大学生活を精一杯がんばり、来年も是非甌島に行こうと思っています。

### 大貫佑介 (4年・相模部・竹石ゼミ)

今年で卒業なので最後の「こしき」でした。

今回はいろんな部活学生も参加して、いつもより人数も多いし、うまくまとまらないのでは...と心配していました。でも、そんなことは1ミリもなくて、やっぱり、甌島は、みんなを察してくれる島、だなと思いました。なにをするにしても、皆で協力して、自分たち一人ひとりで考えて行動することが出来たと思います。

民宿のおじさん・おばさん、瀬々野浦の人たち、甌島の竜馬さんと家族のみなさん、みんな感謝してもきれないくらい、僕たちの面倒をみてくださり、もうおえなくなるのは、本当に寂しいです。

甌島は、僕を育ててくれた島だ、と思っています。山や海は本当に綺麗で、島の人の、暖かさ、めくもりは、一生忘れません。



島の人の笑い顔! (打ち上げ)



はじめてのサーカス! かわいい!

### 大田崇峻 (4年・相模部・岸川ゼミ)

今年が最後の甌島。おじちゃんの家が心に残っています。

「4年間、毎年来てくれてありがとう。おじさんも6年前に島に戻ってきたばかりだけど、本当に毎年来てくれることで元氣をもらってたよ。また絶対来てよ。4年間だけなんてさびしいこと言わないでよ。いつでも待っているよ」

私にとってこの4年間の甌島は、自ら行動し、自ら島の方々と関わっていき、話をしたり聴くことで価値観や物の見方を育てられる体験でした。人としても少しですが成長することができたと感じています。私の人生の大きな財産になりました。甌島は私の第二の故郷です。

## 7. おわりに

九州情報大学の鹿児島県薩摩川内市・甕島での「アイランドキャンパス」事業の展開は、今回で6年目となった。これまでの取り組みは「九州情報大学の甕島での『アイランドキャンパス』の概略と変遷」(4頁に掲載)に示したとおりである。この6年で延べ66名の学生が参加したことになる。その中には複数年にわたって参加しこの甕島での交流実践の中核を担う学生も育ってきた。

思い返せば6年前、当時薩摩川内市の事業として展開されていた「こしきアイランドキャンパス」の本学も参加しようと、初めて上甕島の里港に私が降り立ったのは2012年のゴールデンウィークのときだった。それまで甕島と言われても何処にあるかもしらず、とにかく現地に、との思いで、一度だけ面識のあった現地の齊藤純子さんにお世話いただき上甕を案内していただいた。その時は、「アイランドキャンパス」事業の趣旨に沿って本学の知的資源をどのような形で活用できるかをただただ形式的に摸索していたように思う。折しも同年に本学の学術研究所に「地域情報センター」が新設され、私がそのセンター長の職務に当たることになったこともあり、その活動の中身をとりあえず如何に繕うかという浅はかな目論みに躍起になっていたのかもしれない。しかし、齊藤さんか甕島・里で案内してくれた場所は、ご本人の実家とご主人の実家だった。甕島に暮らす齊藤さんのご家族と出会い、甕島の大きな魅力は、島に暮らす「ひと」にこそあるのではないかと実感することになる。私が感じたこの直感ともいふべき「ひと」の魅力に学生たちも出会わせたい。それは、きっと彼/彼女らの経験に化学反応をもたらすのではないか? そうした予定調和的な目論みとして私たちの「アイランドキャンパス」はスタートした。

そして、6年。初年の2012年は上甕・里での交流実践を実施したが、2年目以降は活動拠点を下甕島・瀬々野浦に移し、その後5年間の活動を行ってきた。

里から瀬々野浦へのシフトは、里が人口1200人を超える甕島列島最大の集落地であるのに対し、瀬々野浦(西山)地区は人口160名ほどの小規模の集落であったことが大きかったと、今振り返って思う。初年の交流実践を実施するにあたり、本学の交流イベントを里集落全体に十分に周知出来なかったために参加者が想定した以上に少人数にとどまったことがある。その後、翌年3月にゼミ学生と共に下甕島・瀬々野浦を訪ね、当時「シンヌウラおこし」(瀬々野浦の地域おこし)の活動をされていた中村周二さん・中川純子さんにご縁が出来たことが、その後、私たちがここ瀬々野浦を拠点に交流活動を展開する大きな契機となった。

瀬々野浦地区は、人口180人ほどの高齢化進行が著しい集落である。しかし、前述の「シンヌウラおこし」など地域振興にかける思いも強い地区であった。折しも私たちが交流を始めるために学生とともに事前打ち合わせに訪ねたとき(2013年7月)、その年の3月閉校した同地区の西山小学校の運動会をその年からは地区のみで実施しなければならないということを知られる。当初私たちは地域の行事を避けて交流実践の日程を決めようとの目論みであったが、日程の折り合いがつかなかった。「それではいっそのこと、学生たちが運動会の参加運営に加わることで西山地区の運動会を一緒に…」ということになり、運動会参加を組み込んだ交流へと方向転換を図ることになった。このことが結果的には功を奏して、以後、毎年運動会に参加し気がつけば5年間、本学と瀬々野浦・西山地区との交流が続くこととなった。

こうした瀬々野浦地区との継続的な交流は、様々な意味で有意義であったし、今後も意味を持ち続けていくと確信を持っている。参加した学生のほとんどすべてが「また行きたい」「来年の参加したい」と



言う。また、そうした学生が次の年には活動の核となって主体的に取り組んでくれる。学生達はさまざまな場面でそれぞれの役割に一生懸命に取り組んでくれた。そのことが彼らの充足感や達成感をもたらしてくれた。その多くは、島の人たちとの出会い、仲間との出会い直し、つまり、〈出会い〉こそが、学生達にそれらをもたらしてくれたと確信している。とりわけ今年度は、多くの領域で学生の自主的・主体的な活動が見られたのが嬉しかった。甑島での活動は学生の主体性を育ててくれる場としてしっかりと機能している。

これまでの本学の「アイランドキャンパス」の試みは、学術的なものというよりも実践的な内容で構成されてきた。それは、「甑島」と本学の学生（留学生）たちとを出会わせたいという、初年度からの私の願いから出発している。なんとか学術的な要素を核に「アイランドキャンパス」を構成しようと、焦った時期もあったが、いまではこの6年間の取り組みは間違っていなかったのではないかと思えるようになってきた。予定調和的で淡いままだった学生達への期待——それは、「甑島」の自然や町並みやそこに暮らす人々との出会いは、きっと学生達になにもものかをもたらすのではないかという淡い期待——も、6年に亘る取り組みを経て一つの実を結んできたようにも思われる。学生達は、単に「甑島」という鹿児島県の島を認知したというレベルをはるかに超えて、「甑島」での感動や出会いをその時だけで終わらせずに、自らの卒業研究や学園祭の取り組みに繋げている。「甑島」が単に“好き”というに留まらず、特別な場所＝九州情報大学における大学生活のひとつの原風景として、学生達は、自らの成長の轍となっていくならば、この上ない幸せである。

〈出会い〉——ここにこそ私たちが「こしきアイランドキャンパス」で求めていることの本質的なものがあるのではないかと思う。甑島には、真っ直ぐに向き合えば真っ直ぐに返してくれる人たちに会えることができる。幸せや喜びをストレートに感受し表出できる場が無事なまでに存在する島、その島を舞台に今後私たちは何をするのか、何がしたいのか、これからも楽しい模索の日々はまだまだ続く。

6年にわたって私たちの取り組みを支えてくださった甑島のみなさん、本当にありがとうございました。まだまだこれからも、よろしく願いいたします。

平田 毅

